

バレーボール用語検討へのご協力をお願い（編集協力者の募集）

バレーボール用語検討ワーキンググループ

バレーボール学会の会員皆様におかれましては平素より、バレーボール競技の発展にご尽力されておられることと思います。

先日、中学生から「どうしてサーブレシーブのことをキャッチというのですか？」という質問を受けました。確かにバレーボールのテレビ中継などでも、時折耳にするようになり気になっていた言葉です。特定のチームの中で通用し、汎用されている言葉が、バレーボール界の共通語のように使われることは、これまでも見られた現象ですが、「キャッチボール」という言葉は、ルールブックでは反則用語として決められている言葉であり、それがスキル用語として何の違和感もなく選手や関係者に使われているということは大変奇妙なことです。このようにバレーボール用語の混乱はバレーボール界にとって大きな問題の一つであると考えられます。用語の混乱は学術の場だけではなく、競技者および指導者、学校体育、競技観戦というあらゆる場でのコミュニケーションの混乱を引き起こします。加えて、近年のバレーボール戦術の高度化と複雑化は日々新しい用語を生み出し、これらの新しい用語も日本のバレーボール用語として受け入れる必要があります。

日本のバレーボール界の発展のためには混乱する用語を再考し、整理して「誰にでもわかる用語」「国際的にも通用する用語」を普及させる必要があります。バレーボール学会「用語検討ワーキンググループ」は2005年より、バレーボール学会員の中から選出されたメンバーにより、バレーボール用語の収集および定義や妥当性などの検討をして参りました。今後は検討語のまとめ作業を行い、何らかの形で出版や配布をして世に問いたいと思っております。

ワーキンググループは現在、編集作業を継続しておりますが、検討を重ねた上でも依然、結論に至らない用語もあります。私どものワーキンググループの事業に賛同し、検討中の用語に対してのご意見を頂けるバレーボール学会会員の方がいらっしゃいましたら、ぜひとも編集作業に加わっていただきたいと思っております。まずは当面の課題となっている下記の5語の用語に関して(1語のみでも結構です)、ご意見をたまわりたいと思っております。

ご意見はメール、郵便、FAXでお送りください。個人情報に関しては細心の注意を払って取り扱い、今回のご意見の受け付け以外には利用しませんので、所属および連絡先もお知らせいただければ幸いです。

【メールでの連絡先】VEV01105@nifty.com 橋本吉登

【郵便での連絡先】〒231-0036

横浜市中区山田町 1-2 横浜掖済会病院 整形外科
橋本吉登

【FAX での連絡先】(045)261-8149

横浜掖済会病院 整形外科 橋本吉登

また、直接のご意見でなくとも、用語に関する文献のご紹介などがありますと大変、助かります。尚、編集の都合上、募集の期限を平成 20 年末までとさせていただきます。以上、よろしく願い申し上げます。

【検討用語 1】旧姓「二段トス」、今では「反撃セット？」

バレーボールのゲーム中に「二段トス」と呼ばれるプレーがあります。この用語の基本概念は「セッターの定位置以外から上がるセット」「セッター以外人間が上げるセット」という内容が含まれていると思います。歴史的に検討しますと、昭和初期に攻撃時のボール接触回数を「段」を使ってカウントしていた時の名残ではないかと思います。現在ではボール接触回数を「一段」「二段」「三段」と「段」を使って数えることはありません。また、二段トスにおける「二」という数も意味がはっきりとしません。このような歴史的な用語であるのに関わらず「二段トス」「二段攻撃」という用語のみが残って、未だに使われているというのが現状です。

ワーキンググループでは歴史的用語である「二段トス」に関して、現在の言葉で、誰でもわかる代替え語の必要があるのではないかと考えております。近年、トランジションという用語が使われておりますが、相手からのサーブをレシーブしてからの攻撃ではなく、相手の攻撃を受けてからの反撃(切り返し)の攻撃の意味です。「二段トス」はそのトランジションにおけるトスと言えます。

「二段トス」を今後も使うべきかどうかの意見および適切な代替え語のご提案があればご提示いただきたいと思います。

【検討用語 2】素敵な改名を募集中。「ブロード攻撃」貴方が名付け親になって

「ブロード攻撃」の代表的なものはセッターがバックセットでボールをライト方向に流したセットを攻撃者がセンターから助走を開始して片足ジャンプで踏み切り攻撃をします。プレーを見れば理解は容易ですが、日本語の文章で定義する場合は難しい用語となっています。元々、この攻撃を開発した中国では”単脚背飛”という用語で呼んでいるようですが、ワーキンググループで考案した定義文は「ネットに沿うように流されたトスに対して、片脚踏切によってトスとともに体が流れるようなジャンプをして打つ攻撃」としております。

「ブロード攻撃」に対してさらに簡潔で理解しやすい表現があれば変更が必要と思っております。「ブロード攻撃」に対しての適切な定義のご提案があればご教示お願いいたします。

【検討用語 3】 スーパー・エースのスーパーって？この用語は必要でしょうか？

スーパー・エースはポジション名ですが、一般には「オポジット」または「セッター対角」と呼ばれています。「オポジット(セッター対角)ポジションに入り、サーブレシーブをしないアタック中心の選手」と一応の定義をすることが出来ますが、和製英語で日本の国内だけで通用する用語です。

現在、ポジションを表す用語としては「ウイング・スパイカー (wing spiker)」「ミドル・ブロッカー(middle blocker)」「セッター(setter)」「リベロ・プレーヤー(libero player)」が国際的にも使われています。ウイングスパイカーは「レフト・プレーヤー」「ライト・プレーヤー」と呼ばれていたポジション名の総称です。ポジションを示す用語としてふさわしいものは

- ・位置を表す…ウイング・スパイカー、ミドル・ブロッカー
- ・役割を表す…セッター、リベロ

であると言えますが、「スーパー・エース」にはそのいずれも含まれておりません。いわゆる「レフト・プレーヤー」との区別をつけるためにはセッター対角という位置の概念が含まれる「オポジット」という用語を使えば十分と言えます。スーパー・エースという用語の使用の必要性についてのお考えお聞かせください。

【検討用語 4】 あいまい「コンビ」を進化させよう！攻撃の戦術バリエーションに名前をつけよう

コンビネーション(略して単に「コンビ」という時もあります)とは日本語では「組み合わせる」という意味ですので、コンビネーション攻撃とは時間差攻撃のように速攻と他の攻撃という複数の攻撃を組み合わせることを意味していると思います。セッターは常に複数の攻撃者の中から一人の攻撃者に対して実際のセットをするので、コンビネーション攻撃が「複数の攻撃を組み合わせる」という定義であれば、コンビネーション攻撃以外の攻撃は現実的には存在しないと言えます。

国際的にも各チームは様々な攻撃パターンを生み出しておりますが、全てを一括としてただコンビネーション攻撃と呼んでしまうことは攻撃戦術を細かく検討する場合の足かせとなる可能性があります。また、速攻攻撃者とセッターとの呼吸が合わずに攻撃が失敗した場合を「コンビミス」と呼ぶ使い方もあり、「あいまい語」に入る用語であると言えます。

コンビネーションという用語を今後は使わずに個々の攻撃に対して、個別に分類し、適切な用語を使うことがバレーボールの発展につながると考えております。コンビネーションは用語として今後、必要か否かのご判断をお教えください。

【検討用語 5】 レセプションとディグの定着を。「カット」「キャッチ」はさようなら。

相手からネット越しに打たれたボールを受ける動作を日本語では一括して「レシーブ (receive)」という言葉で表現して、サーブを受ける場合を「サーブ・レシーブ」、アタックを受ける場合を「アタック・レシーブ」という言葉を用いてきました。しかし、欧米ではレシーブは「相手のサーブを受ける動作」に限り、相手の攻撃を受ける動作はディグ (dig) の用語が使われています。国際的にも国際バレーボール連盟(FIVB)の大会表彰でも守備部門の表彰は「Best Receiver」と「Best Digger」は別の技術として扱われています。動詞であるレシーブ (receive) の名詞形であるレセプション (reception) を用いることも一般的です。

用語の国際化を考える上ではレセプションとディグの使い分けが必要と考えます。逆にこれ以上の用語を増やさないために現在使われている「ブロック・フォロー」や「ブロック・カバー」という用語を使わずに「ブロック・ディグ」に統一することも推奨されます。

また、レセプションでは「サーブ・カット」や「サーブ・キャッチ」という用語も使われていますが、いずれも和製英語で「切る」という意味のカットや「捕る」という意味のキャッチを使うことは問題があります。特に「キャッチ」は審判用語ではいわゆるホールディングを表しますので、全くの誤用と言えます。この二語に関しては使うべきではないと思います。

レシーブ用語全般についてのご意見をよろしくお願いします。